

令和6年(2024年)11月8日  
令和6年度第2回滋賀県  
CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくり審議会

# CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジの取組状況

滋賀県農政水産部  
農村振興課



## 目次

### 1. CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジの取組状況について

### 2. 「滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ推進方針

～生活に溶け込んだCO<sub>2</sub>ネットゼロによる農村地域の活性化に向けて～」

### の作成状況について



# 1. CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジの取組状況について

- 農林水産部においても農林水産漁業の脱炭素化に向けた「CO<sub>2</sub>ネットゼロ実現と気候変動への適応～みらいを創るしがの農林水産業気候変動対策実行計画～」(R4.3)策定
- 同計画での気候変動への緩和策として農村地域における再生可能エネルギーの普及拡大を目指す「CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ創造事業」を創設
- 「CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ創造事業」では、再生可能エネルギーによる地域課題解決や地産地消を推進する「滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ推進方針(作成中)」を作成し、農村地域における脱炭素社会の構築と農村の活性化を目指す



地域の課題を資源として活用



エネルギーの地産地消へ



生活に溶け込んだ形に



# 1. CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジの取組状況について

- 令和4年～令和5年にかけて「CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ推進方針」の作成のため実証試験を実施
- 法面に太陽光を設置することで、法面の維持管理の負担を軽減し(課題解決)、再生電力を農業や地域活動に利用(地産地消)

## 【実証試験 概要】



# 1. CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジの取組状況について

- 令和5年には「CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ推進方針」の検討のため、県内各地でセミナーを開催
- 有識者や地域の実践者をパネラーとして参加者と意見交換



セミナーでの専門家からの意見(抜粋)

- ◆「地域活性化」、「生活の質の向上」を意識した取組が重要
- ◆地域づくりに関する各分野(農林業、観光、福祉、防災等)の取り組みに、組み込んでいくことが有効
- ◆持続的取組に向け、各種事業の伴走支援、専門的知見・ノウハウの蓄積、専門人材の確保等を担う中間支援組織が将来的に必要

- 実証試験地で親子を対象とした農村×再エネのワークショップを開催

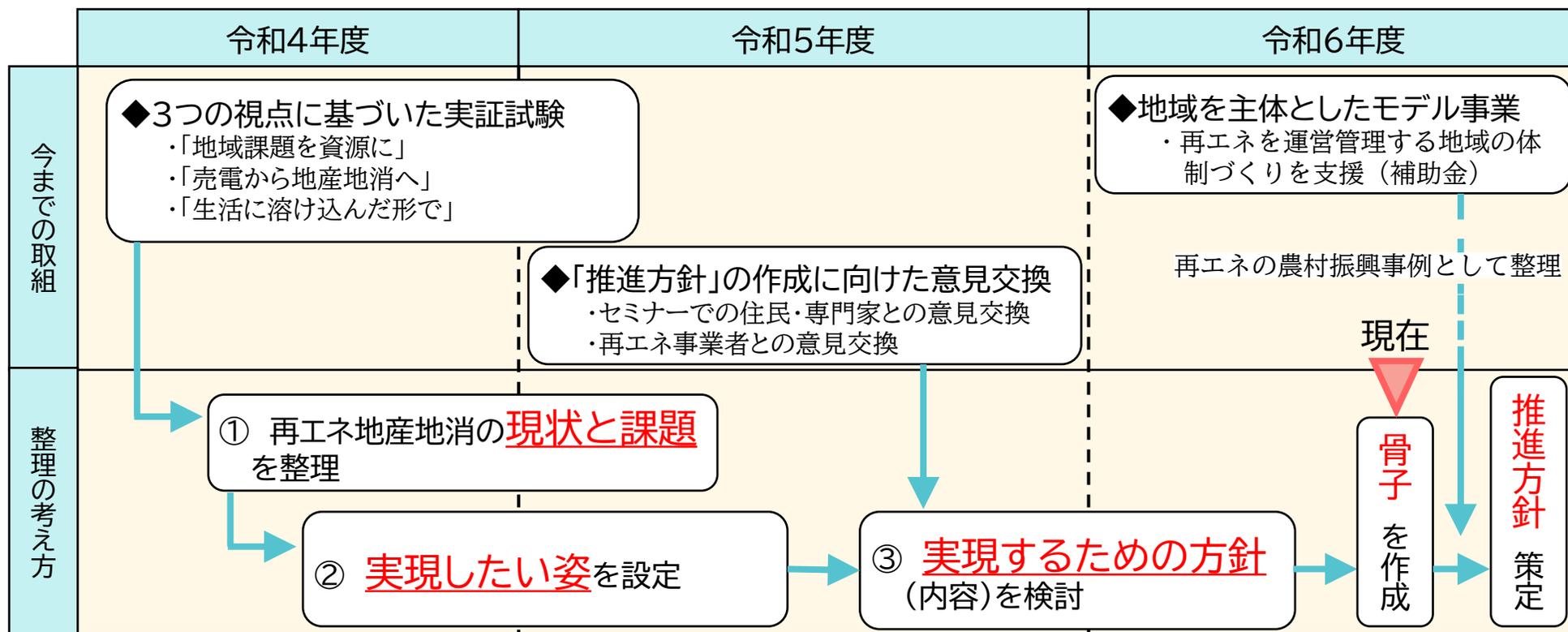


## 2. 「滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ推進方針」の作成状況について

- これまでの取組を踏まえ、再生可能エネルギーによる地域課題や地産地消を推進する

**「滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ推進方針」** を作成中

### 【策定経過と整理の仕方】



# 滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ推進方針 骨子（案）

## ～生活に溶け込んだCO<sub>2</sub>ネットゼロによる農村地域の活性化に向けて～

令和6年（2024年）11月8日  
農政水産部 農村振興課



### 第1章 はじめに

#### <策定の趣旨・背景>

- ・ 滋賀県の農村地域では人口減少や高齢化の進行により地域コミュニティの衰退が危惧され、**地域資源を活用した地域振興**が必要。
- ・ 地球温暖化による気象災害が農作物や農地・農業用施設に大きな被害をもたらしており、**農林水産業においても環境負荷の低減**が求められている。
- ・ 農村地域には**太陽光や小水力などの再生可能エネルギー**が潜在しており、これまでも再エネ設備を整備し、FIT（固定価格買取制度）の売電を進めてきたが売電単価見直しや電気代の高騰を背景に今後は**再生可能エネルギーの「地産地消」の取組が重要**となってくる。
- ・ 以上を踏まえ、次を基本理念とする、再生可能エネルギーの地産地消の取組を推進するための方針を策定する。

#### 基本理念

◆ 環境と調和した暮らしができる、魅力的な滋賀の農村づくり

- ・ 温室効果ガス排出量削減
- ・ 農村地域の魅力向上

◆ 災害にも耐えうる、エネルギーが自立した滋賀の農村づくり

- ・ 地域のエネルギーの自給率向上
- ・ 災害レジリエンスの向上

<推進方針の位置づけ> 「CO<sub>2</sub>ネットゼロ実現と気候変動への適応～みらいをつくるしがの農林水産業気候変動対策実行計画～」の第2章の緩和策を推進する方針とする。

### 第2章 滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ推進方針の目指すべき姿

#### 1 農村地域における再生可能エネルギーの可能性

滋賀県の農林水産業の総消費エネルギー約730,000MWh/年※のうち、再生可能エネルギーが利用されたのは約57MWh/年※と0.01%にも満たず、さらなる活用の余地がある。※:令和4年度エネルギー統計から推計

#### 2 再生可能エネルギーの地産地消の実証試験

##### 「地域課題の解決」

##### 課題

- ・ 田んぼの法面の草刈が負担
- ・ 獣害被害

##### 再生可能エネルギーで解決

- ・ 法面に太陽光パネルを設置
- ・ 草刈面積が減少
- 維持管理の負担減少
- ・ 電力を獣害対策に利用
- 獣害被害が減少

法面の太陽光パネル

##### 「地産地消」



農業用機械に利用



農業用水利施設の電源に



地域の行事に利用し活性化



地域の災害の備えに

#### < 効果 >

- ・ 農村ならではの**地域課題**を再生可能エネルギーで解決
- ・ 農業生産活動だけでなく、**地域活動・防災活動**などに利用
- ・ 地域住民が自らエネルギーを何に使えるか考え、実践していくといった**行動変容**

再生可能エネルギーが日常生活に溶け込んだ新たなカタチの農村振興の可能性

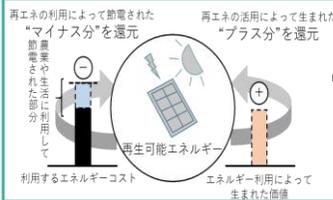


#### < 課題 >

- ・ 農業生産活動におけるエネルギーの**需要が少ない**
- ・ 使えきれない・貯めきれない**余剰電力=無駄**が発生
- ・ 再生可能エネルギー設備の**導入コストが高い**

課題解決のためには…

- ・ 再生可能エネルギーの利用を通じた**節電（マイナス分）**や**新たな価値（プラス分）**による導入コストの回収
- ・ 「**地域全体**」で利用することで**再エネ消費量の増加**



→ **地域が主体的に再生可能エネルギーに取り組む体制づくりへ支援が必要**

#### 3 推進方針の目指すべき姿

##### 視点

再生可能エネルギーを「地域の課題を資源と捉えて課題解決に」「売電ではなく地産地消へ」「地域住民が主体」となった取り組みによって

「生活に溶け込んだ形で」

CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会の農村地域を実現

### 第3章 滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロヴィレッジ推進方針の方向性

#### 1 施策の推進方針「5つの方向性」

##### 再エネを“つくる”

①再生可能エネルギー溢れる村づくり

農村地域での再生可能エネルギーの地産地消を普及啓発  
地域課題解決につながる再生可能エネルギーの利用を促進

##### 再エネを“つかう”

②持続可能なエネルギーシフト

電動機械の普及拡大および新たな技術の試験的な利用に挑戦  
災害時の電源を再生可能エネルギーで賄う

##### 再エネを“いかに”

③再生可能エネルギーを地域の魅力に

再生可能エネルギーを利用した農産物生産の推進  
再生可能エネルギーと観光・定住促進など地域の魅力を向上

##### 再エネを“ひろげる”

④エネルギー自立型農村地域へ

エネルギー運営組織の設立と地域内のエネルギーマネジメント  
によるエネルギーの地産地消

##### 再エネを“ささえる”

⑤再生可能エネルギーを実践する農村地域を伴走支援

(短期) 再生可能エネルギーの地産地消を推進するための連携体制の構築  
(長期) 中間支援組織の設立

#### 2 再生可能エネルギーの地産地消事例

##### 再エネを“いかに”

##### ■ 小水力発電を活用したハウス栽培 ～石川県白山市～

小水力発電の電力を農業用ハウスの温度管理システムに利用。栽培されるいちごの再エネブランド化や摘取体験による集客効果で地域の活性化に。



##### 再エネを“ひろげる”

##### ■ 再生可能エネルギーによる地域活性化 ～三重県多気町～

太陽光発電と小水力発電を活用し、農産物の加工施設に電力を供給。小型EVに充電し、農業施設の巡回監視や地域の高齢者・子供の見回りなどの福祉に活用。



#### 4. 参考資料

各種データ、モデル地区での実証試験の詳細、様々なエネルギー資源の事例、用語説明